

「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」【概要版】

序章 「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」の趣旨

・今後直面する少子・超高齢化、人口減少社会においても、市民の誰もが幸せに暮らせ、みんなに選ばれる、持続的に発展できるまちづくりを進めていく必要がある。

・そのため、21世紀半ばの2050年を見通した長期的な視点で、本市のこれまでの成り立ちを踏まえた上で、これからのまちづくりに求められる機能を備えた都市構造のイメージと、その実現のための具体的な推進方策を示した「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」を策定し、まちづくりの方向性を市民と共有することで、将来にわたって市民生活の質を維持・向上していくことを目指す。

第Ⅰ章 本市を取り巻く環境

1 総人口・人口構造の見通し (2ページ)

・本市の総人口は、平成29年(2017年)にピークを迎えた後、人口減少に転ずると見込まれる。

・年齢別人口については、老年人口(65歳以上)構成比が高まる一方、年少人口(0歳～14歳)および生産年齢人口(15歳～64歳)は、それぞれ構成比が低下すると見込まれる。

2 このまま人口減少・少子超高齢化が進んだ場合に懸念される事項 (7ページ)



○身近な店の閉店やイベントなどがなくなることで、まちの魅力やにぎわいが失われる。



○住宅地など密度が低くなることで、近所との関わりが薄くなり、地域コミュニティのつながりが弱くなる。



○電車やバスの利用者が減り、運行本数が減ることで移動の選択肢が少なくなり、病院や店などに出かけることが不便になる。



○空き地・空き家の増加や、道路・橋などの維持が難しくなることで、安心・安全な日常生活が脅かされる。

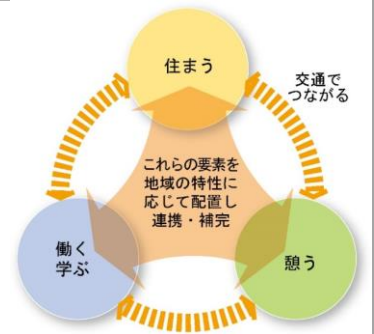
第Ⅱ章 本市が目指す『ネットワーク型コンパクトシティ』の姿

1 求められる都市の姿 (11ページ)

- (1) 社会潮流の変化への対応
- ア 人口減少、少子・超高齢社会での、市民ニーズの変化や多様性に対応できるまちづくり ⇒ **社会的に質の高い生活が享受できる都市づくり**
 - イ 市民の日常生活なども深く関わる、地球温暖化など環境問題への対応強化 ⇒ **環境にやさしい都市づくり**
 - ウ 産業やその担い手となる人材、にぎわいや活力を生み出す交流人口の増加 ⇒ **地域産業・経済の持続的な発展**
 - これらの潮流は、都市が持続可能な発展をするために必要となる、**社会・環境・経済の3つの構成要素**であり、これらを前提にまちづくりを進めることが必要。

(2) これからのまちづくりに求められる機能

市民の日常生活の要素である、「住まう」、「働く・学ぶ」、「憩う」を充足させるために必要な各種の都市機能を集約し、それらを「交通」により補完・連携することが、これからのまちづくりに必要。

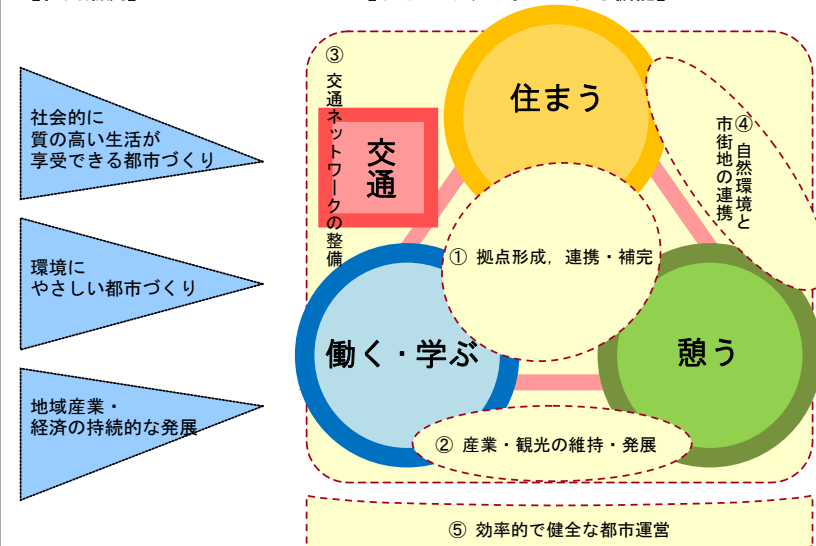


2 今後のまちづくりの理念 (14ページ)

本市が将来の都市像として掲げる『ネットワーク型コンパクトシティ』の形成を着実に進めていくため、「形成ビジョン」では、2050年を見通した社会潮流や、都市に求められる機能を備えることのできる将来の都市形成の方針とその施策を示し、今後も持続的に発展し続けることのできるまちの実現に取り組む。

【社会潮流】

【まちづくりに求められる機能】



実現するための都市の姿

『ネットワーク型コンパクトシティ』

【『ネットワーク型コンパクトシティ』実現のための5つの柱】

- ① 拠点形成と拠点間の連携・補完により持続的に発展する都市
- ② 本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市
- ③ 交通ネットワークが整備された利便性の高い都市
- ④ 自然環境や農地と市街地が有機的に連携した都市
- ⑤ 効率的で健全な都市運営を実現する都市

3 『ネットワーク型コンパクトシティ』の考え方 (15ページ)

・本市のこれまでの地域の成り立ちや基盤整備の状況を十分に踏まえ、それぞれの地域の維持・発展も目指す、本市独自の多核連携型の都市のかたちとして、『ネットワーク型コンパクトシティ』を形成

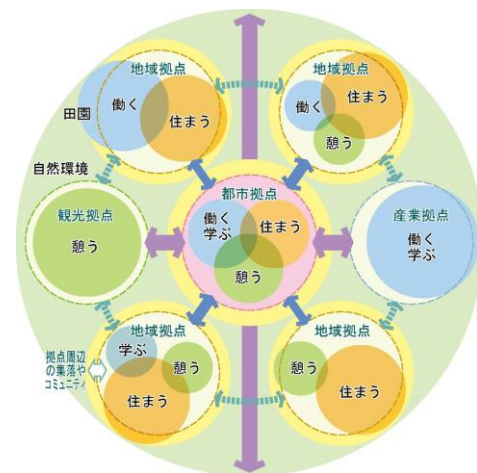
・中心市街地と、各地域の既存コミュニティなどに、**地域の特性を踏まえ**、市民の日常生活に必要な各種の**都市機能が集積した拠点**を形成

・市全体の活力をけん引する、産業・観光に関する都市機能を備えた拠点を形成

・本市の骨格となる交通から、日常生活に身近な移動を支える交通まで、**階層性を持った交通ネットワーク**を構築し、拠点間を**連携・補完**

・これらの「拠点化」「ネットワーク化」により、コンパクトなエリアで日常生活に必要な機能が充足でき、市民生活の質や都市の価値・活力を維持・向上

【『ネットワーク型コンパクトシティ』の概念図】



本市が目指す、『ネットワーク型コンパクトシティ』の特徴

〔拠点化の促進〕

- ・『都市拠点』: 市中心部に形成し、高次性・広域性を備えた全ての都市機能を集積
- ・『地域拠点』: 各地域に形成し、市民の日常生活を支える「住」に関連する都市機能の集積、地域特性に応じた「働・学」「憩」に関する都市機能を配置
- ・『都市拠点』と『地域拠点』の連携・補完により、市民生活に必要な機能を充足
- ・『産業拠点』: 高次の「働・学」に関連する都市機能を配置
- ・『観光拠点』: 高次の「憩」に関する都市機能を配置
- ・拠点の周縁部や郊外部において、農地や里山林などの緑豊かな自然を維持・保全

〔ネットワーク化の促進〕

- ・『交通ネットワーク』: 都市拠点と各拠点間を結ぶ、階層性を有する「公共交通」や「道路」のネットワークを構築
- ・各拠点間も地域特性に応じた交通ネットワークで結び、役割を補完
- ・全ての市民が拠点の都市機能・施設に便利で快適にアクセスできる移動環境を形成

第三章 将来の都市形成の方針

1 拠点形成と拠点間の連携・補完により持続的に発展する都市 (18ページ)

(1) 都市拠点の形成

- ・中心市街地(約320ha)を「都市拠点」として設定
- ・日常生活に密着した都市機能に加え、行政機関やサービス産業、医療・福祉、金融、高度な商業・業務機能など高次の都市機能を集積
- ・教育、文化・芸術、情報、娯楽など全市的・広域的な都市機能を集積
- ・公共交通の輸送効率、円滑な乗り継ぎ利便性が確保され、人・モノが活発に交流する多様な交通結節点を整備
- ・人口の集約を図り、本市の顔にふさわしい人口規模を確保
- ・都市拠点と連担している「昭和・東・錦・西・中央・今泉・西原・築瀬・城東・宝木・細谷・戸祭・桜・富士見・明保・宮の原・陽東・峰・石井・泉が丘・御幸・御幸が原」の各地域は、「都市拠点圏域」と位置付け、都市拠点と役割分担を図りながら日常生活に必要な各種の機能を配置

(2) 地域拠点の形成

- ・「鉄道駅」や「これまでの集落の成り立ち等を踏まえた場所」を中心の目安に市内14か所に「地域拠点」を配置し、都市拠点間や拠点相互に役割を補完しながら、地域特性に応じた都市機能を集約

		地域拠点の中心の目安	関連する地域
市街地部	公共交通結節点	岡本駅	河内
		江曾島駅	陽南・緑が丘
		西川田駅	姿川・陽光
		雀宮駅	雀宮・五代若松原
郊外部	地域におけるコミュニティ施設	田原街道×長岡街道	豊郷
		鬼怒通り×清原中央通り	清原
		新4号国道×みずほの団地入口付近	瑞穂野
		上河内地域自治センター	上河内
		藤井地区市民センター	藤井
		富屋地区市民センター	富屋
		国本地区市民センター	国本
		城山地区市民センター	城山
		平石地区市民センター	平石
		横川地区市民センター	横川

- ・拠点は、中心目安から概ね半径500mの範囲を基本に設定
- ・鉄道駅を核とする拠点には、商業などサービス機能を配置
- ・市街化調整区域の拠点には、コミュニティ支援施設など地域の

- 交流促進や、農業振興に資する機能などを配置
- ・行政サービスをはじめ、「食料品・日用品を買う」「入出金・振込をする」「医者にかかる」に関するものを全ての拠点で享受できるサービスとして配置
- ・上記のうち大規模なものや、その他の都市機能は、拠点間の公共交通アクセス向上により補完・充足

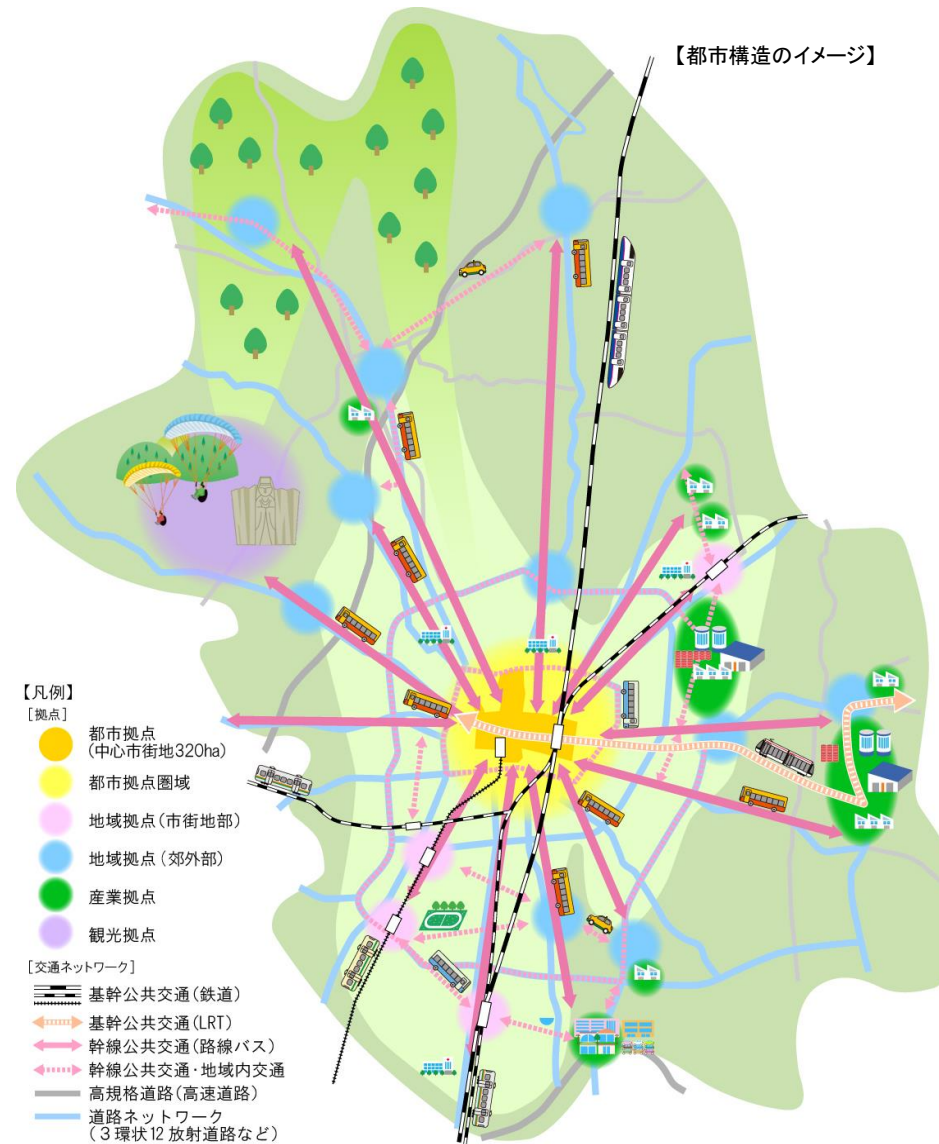
2 本市の特性を生かした産業・観光を維持・発展させる都市 (23ページ)

(1) 産業拠点の形成

- ・「清原工業団地」、「宇都宮工業団地」、「河内工業団地」、「瑞穂野工業団地」、「河内中小工場団地」、「テクノポリスセンター地区」、「インターパーク地区」、「宇都宮インターチェンジ周辺地区」を産業拠点とし、高度な産業・研究開発機能や流通業務機能などが集積した機能性の高い産業空間の形成に向け、インフラや施設の充実を図るとともに、基幹・幹線交通によるネットワークを構築
- ・新たな事業者の誘導を図るとともに、既存事業者の撤退を抑制
- ・低利用となっている「宇都宮インターチェンジ周辺地区」は、広域道路交通の結節性や、観光拠点との近接性などの立地特性を十分に活用し、交通結節機能と公共交通ネットワークの充実を図るとともに、流通業務機能や生産機能のほか、周辺環境も勘案しながら、交流人口の増加に繋がる機能を誘導

(2) 観光拠点の形成

- ・市北西部の「古賀志地域」や「道の駅うつのみやろまんちっく村」を含む、「大谷周辺地域」を「観光拠点」とし、地域資源、歴史や伝統・文化を生かした特色ある地域空間を創出
- ・公共交通の利便性を確保するとともに、インターチェンジなどによる自動車でのアクセス性に優れた拠点を形成



- 【凡例】
- 【拠点】
- 都市拠点 (中心市街地320ha)
 - 都市拠点圏域
 - 地域拠点 (市街地部)
 - 地域拠点 (郊外部)
 - 産業拠点
 - 観光拠点
- 【交通ネットワーク】
- 基幹公共交通(鉄道)
 - 基幹公共交通(LRT)
 - 幹線公共交通(路線バス)
 - 幹線公共交通・地域内交通
 - 高規格道路(高速道路)
 - 道路ネットワーク (3環状12放射道路など)

3 交通ネットワークが整備された利便性の高い都市 (24ページ)

(1) 公共交通ネットワークの形成

- ・拠点間を結節する軸としての公共交通と、地域を面的にカバーする公共交通による、階層性のある公共交通ネットワークを構築

○拠点間を結節する公共交通ネットワークの構築

- ・都市拠点を中心に、その他の拠点を基幹・幹線公共交通からなるネットワークで結び、拠点間の連携を強化

【基幹公共交通】:都市拠点から南北・東西方向の軸で都市拠点と各拠点間をつなぎ、幹線・支線の乗継機能を担う高いサービス水準を提供

【南北】JR宇都宮線、東武宇都宮線 【東西】LRTを導入

【幹線公共交通】:基幹公共交通と連携し、都市拠点と各拠点間を結ぶ主要バス路線や、市民生活に必要な公共・公益施設へのアクセスを支援する公共交通で、沿線の特性に応じサービス水準を維持・向上
特に、二次救急医療施設へのアクセスは、公共交通ネットワークを確保、高運行頻度化

○面的な公共交通ネットワークの整備

- ・地域内を面的にカバーする地域内交通を整備
- ・隣接する拠点との連結も進め、一定の需要が見込まれる場合は、支線公共交通を検討

(2) 道路ネットワークの形成

- ・3環状12放射道路を軸とした道路ネットワークによって、道路交通の混雑解消や交通の円滑化などを通じた公共交通サービス向上や、観光や物流などを通じた経済活性化を促進

(3) 交通結節機能の強化

- ・複数の交通手段が接続する場所では、円滑な乗り換え実現に向けた施設・設備の整備とともに、公共交通沿線の土地利用を検証しながら、住民の生活利便性向上等に資する都市機能の誘導を可能とする土地利用を促進

4 自然環境や農地と市街地が有機的に連携した都市 (27ページ)

(1) 良好な住宅地の形成

○居住誘導エリアの設定

- ・人口減少局面でも一定の人口密度を維持するため、既に都市基盤整備の整っている場所を基本に居住誘導を図るエリアを設定し、市民のライフスタイルや居住選択を尊重しながら、空き家等の既存ストックを活用し時間をかけて緩やかに居住の移転を図り、適正な住宅地を形成
- ・将来的に居住の集積・集約を図っていくエリアを以下のように設定

【市街地部の居住誘導エリア】

- (ア) 都市拠点(約320ヘクタール)
- (イ) 市街化区域の地域拠点および公共交通利便エリア
 - ・対象範囲:①市街化区域の地域拠点
 - ②市街化区域の公共交通利便エリア:概ね鉄道の駅から半径500m、運行頻度の高いバス路線のバス停から半径250mのエリア

【郊外部の居住誘導エリア】

- (ア) 市街化調整区域の地域拠点
本市農業の発展や生活環境の維持、郊外部地域の持続性を高めるため、定住環境の維持・向上を図りながら、地域拠点への居住集約を促進
- (イ) 既存集落等
コミュニティの維持を図るため、地域拠点以外の地区計画、大規模な住宅団地や既存集落を活用し、地域内の居住集約を促進

○居住誘導エリア外の土地利用

- ・居住誘導エリア外においては、居住集約を図った後の土地の緑地等への転換などによる付加価値の向上や、自然と調和した生活環境の確保など、市民の多様なライフスタイルに応じた居住選択が可能な土地利用を促進

(2) 農地・森林などの自然環境の維持

- ・農作物や木材などの生産の基盤であり、水資源の涵養機能や防災機能、保健休養機能、大気保全機能などの公益的機能が適切に確保できる農用地、森林を保全

5 効率的で健全な都市運営を実現する都市 (29ページ)

- ・人口減少局面を迎える中、民間活力による拠点の形成やネットワークの構築など社会資本の集積を進めるとともに、公共施設の適正配置を図るなど、市民・事業者・行政が一体となって効率的で健全な都市運営を促進
- ・公共交通の充実など広域的な検討が必要なものについては、県や周辺自治体と連携・調整を実施

" i v Ò < b N4 _ \ S W Z

>/ 0Û o æ † b* f < % ¼ b & 1

H H H GhGŠGFH >ì

E•0Û o æ † FÿH • wFp% æFéG[GQGVG]GŠG= °GAG•G_G=GVGEGTG1Fp"l, G ",+- öH w/¼ i1* Z æG" µG > ... æG Fp Ð!IFpFj2ÄGfùH G" (FØFiG FpFøFçH è WFpG FÖFú*fFø %øFùG G 0¿ >ì G%o>ì 0Û o æ † Fp0¿ FùFøFÖFöFÿH zFù4" wFp à)F öG"FùFpG FÖFù)T àFçFöFÖFßFÜFøFÖFÖ0{!IFÛG H GaGFGuG•Fp 'Ç /(ÖFäFøFùH >ì D G[GQGVG]GŠG= °GAG•G_G=GVGEGTG1Fp% æFé4" wFp" g #G"/2FéG Fp>ì D G[GQGVG]GŠG= °GAG•G_G=GVGEGTG1 g BFù ¥FáFi ' ' 'ÇFp4 G" 5 \$x Fù0Û oF÷FÝG G Fp>ì >ì G"0¿ >ì G%o>ì æ † Fp ½ /\$x Fù4E FùFøFÖFöFÿH • w w ;%É'2GIG•GMGŠFø ñ4" ± Û4" w0£#i%É'2 Fp 1 %É'2FÁGAG•G_G=GVF÷ à)F Ñ4FùG FñFöFßG Fp Fù ¥FáFi1* %É'2FÁFÄH 1 BH H °H vH G H FÄ4" w S4 Fp0Û oFù6öFéG G]G•GWGDGQG=H \ u °3Û%,4" w •H FÁF÷&gFäGfùFöGì æ † FùFù" g G%o>ì 0Û o æ † XFùFøFÖFöFÿH 4" w g BFp •FÝG")r æ\$xFù • qF÷FÝG G FÖH GaGFGuG•Fp 'Ç /(ÖFäFøFpG^GwG•GGFù4Ä ÖFçFö0¿ >ì >ì

Table with 2 columns: 'Ç b /(Ö and 0Û o æ †. It contains phonetic and orthographic examples and their corresponding phonetic transcriptions.

G%o>ì 0Û o æ † FùG G 4" w g BFp 2 /Fp4 & 1 FÿH)r æ0£#iFp 5 Fù æG FëFö <ì G%o>ì ½ /\$x Fù X íFp FùFøFöFöFÿH 6ö4 FéG ¶ 9 (5 90£#iFù VFáFöFÖG æ † FøFp Z æG" WG FùFÜG <ì G%o>ì V0°Fp4 & 1 G"/ö öFéG FiG H FÄ)r æ0£#i <0£#iFÁFp 5 G H 6ö4 FéG ¶ 9 (5 90£#i¼Fp4 & 1 Fp pF÷H 4: H) °Fp •FÝG"q>ì

>0 N4 / D H H H GhGŠGFH >ì

í g B Á ù à [f&g K S v) b ½ /i _ \ S W Z c>* z _ w/¼ i æ † P1B \ K S 'g ...4: G i0£#i \ w/¼ i1* Z æ † P1B \ K S , S ^ u ... <#Ý %5* †Ç K%T _ N4 í r S >*6ö4 M •) (5 b0£#i †Ç K >*0£#i †6ë _ > 8 Z5 !!\$x _ v ~) t 'Ç í ! † Ì S B K ^ @ } >* F4E ¥ \ 7ÿ p G x ; 'Ç4 † W • G \ [>* Ý \$ x í S \$ x _ N4 >ì í ç µ ° á í j ° ¥ á Æ j ° @ • b g B _ c > /æ ; T E [^ C > * w , í ! * ... _ | • v) v5 0 [[6 • G \ ?] >* g B Á ù à b Æ † È C Ø % ± M • \ \ v _ > * w , í ! * ... /æ ; @ 4 K ^ @ } Á ù à b # _ ¥ E v) † N4 >ì